



ところざわ

生きものにぎわい通信

第2回
(全3回)

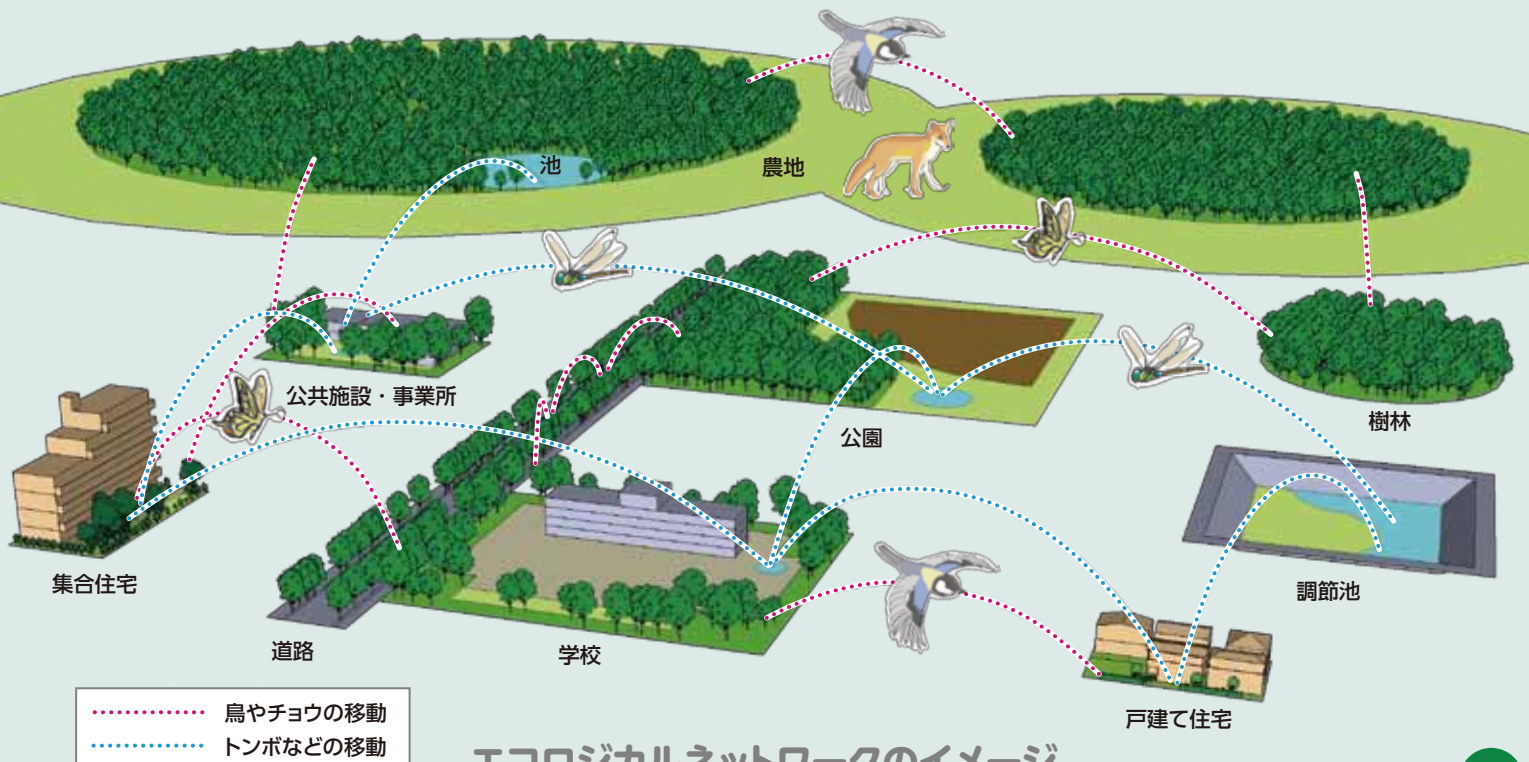
発行 所沢市環境クリーン部みどり自然課
発行日 令和3年1月1日



「生きものにぎわい通信」は、所沢の自然・生きものや、自然を守る活動・ふれあう活動を全3回のシリーズで紹介します。

自然をつなごう！

野生の生きものの多くは、すみかを移動して暮らしています。そのため、生きものが将来も所沢で暮らせるようにするためには、大小さまざまな自然があり、その間を生きものが移動できるようになっていることが必要です。このように、自然を適切に配置し、生態的なつながりを持たせることを「エコロジカルネットワーク」と呼びます。今回は、このエコロジカルネットワークに注目して所沢の生きものや自然を見てみましょう。



エコロジカルネットワークのイメージ

エコロジカルネットワークってなあに

エコロジカルネットワークは、さまざまな生きものが行き来できるように自然をつなぐ方法です。鳥やチョウ、トンボなどの飛べる動物のために、飛び石のようにつなぐ方法や、タヌキやニホンカナヘビなどの地面を移動する動物や、魚などの川の中を移動する動物のために直接つなぐ方法があります。今ある自然を守りながら、公共施設や学校、事業所、庭やベランダなどさまざまな場所で生きものすみかをつくることによって、エコロジカルネットワークが充実します。

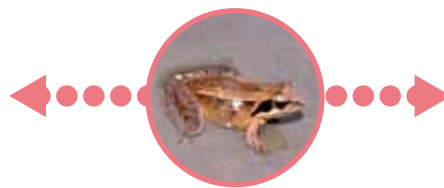


異なる自然のつながりも大切

生きものの中には、森と水辺、森と草地などの異なる自然を使っている生きものがいます。こうした生きものを守るためには、異なる自然をセットで守り、つくることも大切です。

ニホンアカガエル

普段は林で生息し、早春に浅い水辺で産卵します。



ハグロトンボ

水生植物の生える緩やかな流れに生息します。若い個体は水辺から離れたやや暗い林で生活し、成熟すると水辺に戻ります。



コガモなどのカモ類

日中は湖や池、川の水面や岸辺で休み、夕方から湿地や稲刈り後の水田などで植物の実などを採食します。



市外にひろがるエコロジカルネットワーク

海とつながる

市内の柳瀬川でみられる生きものの中には、川と海や河口とを行き来している生きものがあります。川の中に行き来を妨げる大きな段差がないことがポイントです。

アユ

川の下流域で産卵し、仔魚の時期には、河口付近の海で過ごし、大きくなると所沢にもどってきます。



マルタ

川の河口や沿岸に生息し、春に川を遡り産卵します。稚魚は川で成長し、夏に河口付近に移動します。



モクズガニ

川に生息し、孵化から4~5年して成熟すると河口に下り、河口から沿岸で産卵します。孵化したのち、成長しながら川を上ります。



地図は地理院タイルを使用

東京湾

東京湾

家でもできる！学校でもできる！

庭やベランダに生きもの
のすみかをつくることで、
エコロジカルネットワ
ークの「飛び石」になり、
所沢市の自然を高めるこ
とにつながります。



安松小学校

学校ビオトープは、さまざまな生きものがやってくるようにすることで、
エコロジカルネットワークの重要な場所になります。



スイカズラ



クロアゲハ

フェンスなどでつる植物を育てると、
さまざまな昆虫が蜜を吸いにやってきます



ミカン



アゲハ

庭やベランダでミカンやサンショウの木を育てると、
アゲハがやってきて産卵し、幼虫が育ちます



三ホソカナヘビ

すきまをもたせて石を積んでおくと、トカゲのな
かまやエンマコオロギなどのすみかになります



ベニシジミ



庭の一角やプランターに小さな草地をつくると
チョウやバッタなどがやってきます



ムラサキシキブ



ジョウビタキ

庭に実のなる木を植えると、
野鳥が実をついばみに訪れます



ギンヤンマ

プランターなどに水草のある小さな水辺をつくる
と、トンボが産卵してヤゴが育ちます

世界とつながる

所沢の自然を目指して毎年渡り鳥がやってきます。渡り鳥を迎える自然を守りつくることで、
世界のエコロジカルネットワークを守ることに役立ちます。



冬鳥



ジョウビタキ



マガモ



アオジ



ツグミ

冬にシベリアなどから越冬のためにやってきます。

夏鳥



カッコウ



キビタキ



オオヨシキリ



ツバメ

夏に東南アジアなどから繁殖などのためにやってきます。

探してみよう!

身近な生きもの

寒い冬の季節、昆虫たちは様々な姿で冬を越します。同じなかまの昆虫でも、冬越しの姿は種によって違います。ひっそりとかくれている昆虫たちを探してみましょう。

カマキリのなかま (卵越冬)

スポンジ状の卵のうには、寒さや湿気から、中の卵を守る役割があります。種類によって卵を産む場所と形が異なり、オオカマキリは低木の枝や草の茎、ハラビロカマキリは樹皮や家の塀などで見つかります。



オオカマキリ



ハラビロカマキリ



ツチイナゴ (成虫越冬)

バッタのなかまは、ほとんどが卵で冬を越しますが、ツチイナゴは成虫のままで冬を越します。普段は、クズやスキの野はらの枯草の下でじっとしていますが、暖かい日には葉っぱの上で日向ぼっこをしています。



ゴマダラチョウ (幼虫越冬)

エノキの樹の下の枯葉をめくると、枯葉と同色の幼虫が隠れています。幼虫は頭に2本の角があり、かわいい顔をしています。最近、同じエノキの葉を食べる外来種のアカボシゴマダラが増えたため、数が少なくなっています。

行ってみよう! 所沢の自然スポット



『さいたま緑の森博物館』と『八幡湿地』『比良の丘』

お待ちしております!

「さいたま緑の森博物館」は、所沢市と入間市にまたがり、狭山丘陵の自然そのものを展示物とする野外博物館です。番号のついた道標が整備されており、案内所で配布するマップを片手に自然散策を楽しむことができます。中でもおすすめは、市民が水田を管理する「八幡湿地」と所沢市の最高地点「比良の丘」をめぐるコース。「比良の丘」は風景を楽しみながらお弁当を広げるのにぴったりな場所です。



森の小径



比良の丘



八幡湿地

さいたま緑の森博物館 (電話: 04-2934-4396)
西武バス小手指駅南口発「宮寺西」または「金子駅入口」行「萩原」バス停下車、案内所まで徒歩約10分
案内所に駐車場あり
※案内所の休館日をご確認の上でかけください。